



さかな釣り

日曜日は、いつも小さな体の少年に、大きな冒険を与えてくれた。

あれは空が曇り小雨ふる梅雨のある日のことでした。いつも以上の期待と装備、とはいってもボケッの中にもオモリと針が少し多いことと、雨カッパを着て

探れ、これが最高の餌でした。潮が引くとたくさんのお魚が海辺を覆い、その隙間に仕掛けを入れては餌を変え、時に獲物を手にすることが出来ました。

特に大潮の日の干潮は、日頃渡ることが出来ない岩に乗ることができ、そのたびに短いチャンスが無駄にすることなく時合いがくるの心躍らせながら待ちながら釣りを続けたものです。

釣りをしていると、次第に濡れた足下から冷えてくるのがわかり、子どもの夢中な時間にも満足という名の限界が訪れるものですが、その時も腰まで海に浸かり初めて渡った大岩に乗り、ここまで来たのだという優越感を心と瞳は周囲を見下ろしていた。

その場所は、見るからに釣れそうに大きな沈み石があり、すかさず仕掛けを下ろし、当たりを待った。すぐに小さな魚が釣れたが、その後を追うように大きな黒い影が目に映った。とたんに心臓がドキドキと音をたてているかのように打ち、息も乱れた。

震える手でもう一度餌を出したのを覚えている。つけて同じ所に仕掛けを入れたと同時に、今までとは違う強い引きが竹竿から伝わり、アツと言う間に隙間に潜り込まれ、仕掛けは動かなくなっていました。

少年は、ただじっとその場所から出てくるのを待っていました。すぐに小さな魚が釣れたが、その後を追うように大きな黒い影が目に映った。とたんに心臓がドキドキと音をたてているかのように打ち、息も乱れた。

震える手でもう一度餌を出したのを覚えている。つけて同じ所に仕掛けを入れたと同時に、今までとは違う強い引きが竹竿から伝わり、アツと言う間に隙間に潜り込まれ、仕掛けは動かなくなっていました。

少年は、ただじっとその場所から出てくるのを待っていました。すぐに小さな魚が釣れたが、その後を追うように大きな黒い影が目に映った。とたんに心臓がドキドキと音をたてているかのように打ち、息も乱れた。

震える手でもう一度餌を出したのを覚えている。つけて同じ所に仕掛けを入れたと同時に、今までとは違う強い引きが竹竿から伝わり、アツと言う間に隙間に潜り込まれ、仕掛けは動かなくなっていました。

少年は、ただじっとその場所から出てくるのを待っていました。すぐに小さな魚が釣れたが、その後を追うように大きな黒い影が目に映った。とたんに心臓がドキドキと音をたてているかのように打ち、息も乱れた。



一晩かけて釣ったウナギ



おなかすいた！

多くの声、作品など募集しています。ふるって応募して下さい。お待ちしております。

壱岐新報社



芦辺町、壱岐の蔵酒造の駐車場前スペースに約4アールで植えられ、見事に咲いているヒマワリ。ヒマワリは「人権の花」。

《短歌とエッセイ》市山 節子
鵜飼い（大分県日田市三隈川）
夕暮れの川風に向き羽ばたける今宵スターの鵜の眼するとし
腰みのかざ折れ帽をかぶりたる鵜匠は民話の浦島に似て
出陣の武士のごとくに胸そらす鵜らのめぐりの空気緊まれる
気の荒き鵜が身がまえて威嚇する近づくわれに嘴をふるわせ
船べりに嘴を振りつつ並びいる鵜がわきまえる長幼の順
若き鵜におとらぬ働きするという最年長の白髪が目立つ
かがり火に驚き目ざめし鮎たちを追える鵜の網四方にゆるる
呑みこむやすぐ吐かされむ長き首ほぐされており鵜匠の右手に
屋形ぶね浮かぶ波間を伝いくる吞まるる鮎と鵜らの吐息が
鵜匠と鵜ひとつ心を照らしつつかがり火とときに大きく燃ゆる

今、島の中で起きている事

「カード詐欺事件」

《詩》 ニチニチソウ
井手 美穂子
かわいらしいニチニチソウ
紅色系
花は短命だがつぎつぎと
咲き続けるので長期間楽しめる
切花 鉢植え 花壇など
ニチニチソウは一年草

ニチニチソウが初夏の風に揺れて何かしらささやいている蝶々が舞って楽しそう

ニチニチソウの花言葉は『楽しい思い出』

ニチニチソウを愛でていると時間の流れが美しく感じられるあなたに魅せられて・・・

今、壱岐の島ではカード詐欺に関する話題が島を駆け巡っている。新聞という報道を担う立場上、現時点で今回のこの一件について、どこまで書くべきか、書かざるべきか、自問自答の末、この場を使って書ける範囲は出来るだけ書こうと思う。

このカード詐欺は、思ったよりも根が深く、被害者である者が、もしかすると加害者でもあるかもしれない、という複雑さを持っている。

まずは事の経緯を簡単に説明しておく。「消費者金融のキャッシングカードを作ってくれば、そのカードの限度額に見合った謝礼金を渡す」という内容の言葉から、その話に乗せられてしまった人たちがカードを作成し、そのカードは「引き出しが出来ない様にロックをかけ、きちんと管理しておくから」と言葉巧みに騙し、そのカードを紹介者に渡す。

実は、インターネットとこの話はそれ以上かもしれない事。「加害者と被害者との区別が明確でない事」「インターネットの普及により、事件の噂が広まった事」が考えられる。

特に、インターネットというのは諸刃の剣で、情報を早急に得るにはこれ以上のものはない反面、情報の精査が取れず、真実と嘘との判別が取れず、ともすれば悪意ある噂を流されてしまひ、ある時期に督促状が届き、その事実が気が付いてしまふ、というもの。

私が知る限り、おそらくここまでする内を駆け巡った事件はなかったように思う。その理由として、「被害者が200人とも300人ともいわれ、小さなコミュニティの中

で、「あの人もやりよるとなら安心したい」「この人からの話やけん大丈夫たい」という、確信無き安心感が勝手に一人歩きして事の進行を広めてしまっている。

そしてここで言う誤報というのも、同様に一人歩きし、単なる噂や誤報が、さも真実の様に語り巡り、風評被害のような二次被害を生む可能性さえある。

今回のような金銭的問題は、一人で悩もうが、噂に左右されようが、解決するものではない。早急に打つべき手を打たなければ傷口は広がるばかりであり、気が持ちはわかるが、誰かを誹謗中傷したり、追い込んだりしても何も変わらない。

まずは可能であるならば単独で動くのではなく、被害者である人たちに由る被害者の会を作り動き出す事。そして弁護士を通して、カード会社への対応